

第3回よこはま保健医療プラン策定検討部会会議録	
日 時	令和5年7月24日（月）19時00分～20時08分
開催場所	横浜市役所18階会議室みなと6・7／Zoom
出席者	赤羽重樹委員、浅見剛委員、生田純也委員、石川ベンジャミン光一委員、牛丸良子委員、河村朋子委員、久保田充明委員、寺内康夫委員、中澤明尋委員、二宮威重委員、平元周委員、伏見清秀委員、松浦正義委員、三角隆彦委員、吉村幸浩委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者0人）
議 題	<p>報 告</p> <p>（1）「よこはま保健医療プラン2018振り返り」について 【資料1】</p> <p>議 事</p> <p>（1）「よこはま保健医療プラン2024」について 【資料2】</p> <p>その他</p> <p>（1）今後のスケジュールについて</p>
決定事項	
議 事	<p><b>1 開 会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部長挨拶</li> <li>・新任委員の紹介</li> </ul> <p><b>2 報 告</b></p> <p>（1）「よこはま保健医療プラン2018振り返り」について</p> <p>（伏見部会長）</p> <p>よこはま保健医療プラン2018振り返りについて、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>（事務局山木係長）</p> <p>&lt;資料1について説明&gt;</p> <p>（伏見部会長）</p> <p>ありがとうございました。委員の皆様から質問・意見等ありましたら、よろしくお願いたします。</p> <p>（三角委員）</p> <p>委員の三角でございます。現行プランの振り返りなので、計画期間は今年度いっぱいですよ。令和5年度が終わったところで、もう一度、第三者を交えて評価されるのでしょうか。</p> <p>（事務局山木係長）</p> <p>ありがとうございます。資料1の2ページの下段をご覧ください。先生のおっしゃるとおり、本日お示しした最終振り返りはあくまで見込みでの評価です。実際に</p>

は、現行プランの最終年度（令和5年度）が終わり、令和6年度に庁内で正式に振り返りを行います。振り返り評価については、本部会の親会にあたる「横浜市保健医療協議会」という審議会において、毎年振り返りを報告しておりますので、来年度の横浜市保健医療協議会にて最終振り返りについても正式に報告させていただく予定でございます。

（三角委員）

ありがとうございます。

（伏見部会長）

ほかはいかがでしょう。赤羽委員、お願いします。

（赤羽委員）

横浜市医師会の赤羽と申します。C評価について、研修等はコロナ禍での影響によるとのことですが、病床数が目標に達しなかった理由の分析はできているのでしょうか。

（事務局山本課長）

地域医療課長の山本でございます。病床については、高齢化に向けて、回復期や慢性期の病床が必要になるということで、毎年手挙げ方式で公募をかけております。昨年度については、公募はかけたのですが、増床や新規のベッドの増を行いたいという病院の手挙げがございませんでした。建築資材等の高騰が続いていることと、コロナ禍の3年間を経てこの先の受療行動がどのように変わっていくかを病院としてはまだ見定める必要があるということで、評価としては、C評価とさせていただきます。

（伏見部会長）

ありがとうございました。

今年度末以降に最終振り返りがあると思いますので、そのときに再度議論をお願いしたいと思います。

それでは、次の議題に移りたいと思います。

### 3 議 事

#### （1）「よこはま保健医療プラン2024」について

（伏見部会長）

「よこはま保健医療プラン2024」について事務局から説明をお願いいたします。

（事務局山木係長）

<資料2について説明>

（伏見部会長）

ありがとうございました。まずは、前半の部分、資料9ページまでの骨子案と次期プランの特徴について、ご質問・ご意見等がありましたらお願いします。

（二宮委員）

横浜市歯科医師会の二宮です。大変分かりやすい説明をありがとうございました。まず、8ページについてです。現行プランからの見直しということで、かなりスリム化されるということでした。現在の「よこはま保健医療プラン2018」は350ページほどありますが、横浜市のほかの計画、例えば、「障害者プラン」や「健康横浜21」、「地域包括ケア計画」は大体200ページ前後ぐらいになっており、おおよそそのくらいのページ数を指すということによろしいのでしょうか。

続いて、9ページについてです。ロジックモデルを活用するということが、  
「よこはま保健医療プラン2018」では、P D C Aサイクルを重視して振り返りを行っていたと思います。「Ⅶ章 評価」にも関係しますが、P D C Aサイクルとの関係については、どのように進めていくのでしょうか。

(事務局山木係長)

ご質問ありがとうございます。まず、全体のページ数など、ボリューム感については、まだ確定はしていないところではありますが、スリム化するとはいえ、きちんと掲載しなければならない部分があり、見やすさとのバランスになってくるかと思えます。「感染症予防計画」という新たに加わる要素もございますので、実際には150ページから200ページぐらいになるのではないかと現時点では予定しています。

2つ目のご質問にありました、ロジックモデルとP D C Aサイクルについてです。ロジックモデルを取り入れることで、指標などを体系化して、それぞれがきちんと紐づきながら取組を進めているか、目指す姿に対して施策が妥当なのかなどを確認しながら取組を推進していくことが必要だと考えています。紙面の見やすさという観点からも良いのではないかと思います。保健医療プランを踏まえて各施策を実行していくこととなりますので、実際には、P D C Aを回しながら振り返りを行い、課題への対応や次の事業をどのように変えていくのがよいか等、チェック(C)、アクト(A)していくこととなります。ロジックモデルについても、振り返りの中で確認して、新たなアクションにつなげていくというふうに使っていただけらよいのではないかと考えています。

(二宮委員)

ありがとうございました。

(伏見部会長)

ほかにご意見・ご質問ありましたらよろしく申し上げます。

では、素案たたき台部分の11ページ以降について、ご質問・ご意見等、よろしく申し上げます。

(三角委員)

資料17ページに、医療需要予測のグラフが載っています。全国と比べて、神奈川県や横浜市は、入院と外来が2040年までさらに増えていくだろうというデータだと思いますが、始点が2020年になっていることが気になります。2020年は、2019年よ

りも入院患者は10%ぐらい減っていたのではないかと思います。おそらく外来についても、クリニックも含めて患者さんは減っていたのではないかと思います。このグラフの2020年の値が実際の数字なのかという点と、2020年を100として予測することがよいのかという点が引っかかっています。

(事務局山木係長)

ありがとうございます。私どもも医療需要予測のデータを検討した際に、コロナ禍であった2020年の数値を採用するか、コロナ前の数値を採用するのがよいのかという議論があり、両方を見比べてみました。確かに、実数に差があるのは間違いなのですが、ある時点を100としたときの上がり具合、上がる傾向というのはほとんど変わらなかったため、案としては、2020年を100としたデータを採用しています。まだ庁内で議論している段階なので、データの専門家の方などにご相談しながら、最終的にどの数値を採用するのがよいかを決めていきたいと思っています。

(三角委員)

ありがとうございます。伏見先生はどう思われますか。

(伏見部会長)

確かに、基準値がずれているのは少し嫌な感じがしますので、十分検討していただきたいと思います。

(三角委員)

はい。よろしくお願いします。

(伏見部会長)

ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。

(二宮委員)

42ページです。現行プランでは「歯科口腔保健医療」になっていましたが、「歯科口腔保健・歯科医療」となり、「歯科医療」がクローズアップされたことはとてもよいと思いました。その一方で、現行プランについても「健康横浜21」と重なる部分が多く、「歯科医療」に関してはほとんど記載されていないという印象を受けております。次期プランの素案たたき台では、現時点では空白の状態になっていますが、どのような方向で進めていくか、お聞かせいただけたらと思います。

(事務局山木係長)

二宮先生、ありがとうございます。現時点版の資料では、歯科関連の記載が少ないのではないかと、もう少し書けることがあるのではないかとご指摘かと思えます。現時点版では、疾患ごとに歯科について書いているテーマもあれば書いていないテーマもあります。VI章に「歯科医療」としてまとめますので、各疾病で書いた内容を再掲することも含めて、全体として、やっていること・やっていこうとしていることを見せていくことが重要だと思っています。次の部会でお見せできるように調整していきたいと思っています。

(二宮委員)

ありがとうございました。

(久保田委員)

横浜市薬剤師会の久保田でございます。よこはま保健医療プランは、第8次医療計画とリンクしたつくりになっていると思っております。IV・V章の疾病・事業の中で、治療や重症化予防については触れられているのですが、第8次医療計画の中では、予防と治療、重症化予防について書いているかと思えます。ですので、予防についての取組ももう少し入ってくるとよいのではないかと思います。例えば、28ページの糖尿病を見ると、「目標を実現するための取組」には予防の取組も入っていますが、「目標」のところには入っていません。ロジックモデルとしては、「目標」にも予防についての目指す姿を足さなければいけないのかなと感じました。疾患ごとにこうした点が見られると思えます。

32ページ、V章の2「災害時における医療」ですが、第8次医療計画の中では、災害薬事コーディネーターを薬剤師が行うということが新たに記載されております。今回のコロナ禍も、ある意味で災害対策のようになっており、物品が不足してしまったという状況がありました。医療提供体制の中に医薬品の提供体制についても組み込むことも踏まえ、災害薬事コーディネーターも災害医療コーディネーターと同様に素案に記載していただければと思います。

(事務局大庭部長)

地域医療部長の大庭です。まず、災害薬事コーディネーターの話ですが、神奈川県と神奈川県薬剤師会において、調整を進めていると聞いています。市としては、県の検討結果を踏まえて、市の体制や防災計画への明文化などを含めて検討していきたいと思っております。

(事務局山木係長)

各疾病の目標部分にも予防についての記載ができるようにというご意見をいただきました。確かに、体系化した際のバランスが取れていない部分もあるように思います。庁内に持ち帰って検討していきたいと思えます。検討した結果を次の部会でお示しできるようにしていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

(久保田委員)

ありがとうございます。ぜひ整合性がとれているとよいと思えます。災害薬事コーディネーターについては、県と県薬剤師会で調整しているということも十分承知しておりますが、県の医療計画よりも市の保健医療プランのほうが先行して検討している状況ですので、情報を捉えて適切に対応していただければと思います。よろしく願いします。

(伏見部会長)

ありがとうございました。赤羽委員、お願いします。

(赤羽委員)

横浜市医師会の赤羽です。36ページ、感染症予防計画のところです。36ページの

2つ目のセンテンスの「策定にあたっては～」というところですが、国が定める指針、さらには都道府県が策定する「感染症予防計画」や医療法に規定されている「医療計画」と整合性を取らなければいけません。ということは、県が先行して策定しないと市は計画をつくれないうことになりますか。

(事務局赤松部長)

ありがとうございます。「感染症予防計画」は令和6年4月にはスタートさせなければいけないとされており、この点については、県も市も同じ状況です。本来は、まず国が指針をつくり、県がつくった計画をもとに市が計画をつくるという順番なのですが、国が指針等を出したのは令和5年5月末頃であり、大変厳しいスケジュールになっております。ということで、県がつくるものをにらみながら、保健所設置市はつくらなければいけませんので、ほぼ同時並行で、数値目標に関しては担当者間で細かく詰めながら計画を進めていくこととなります。本日も県と会議を行ったところですが、県との調整とほぼ同時に、市会にもかけなければいけませんので、県と調整しながら進めているところでございます。

(赤羽委員)

ありがとうございます。ということは、県と一緒に進めているから大丈夫ということですね。

(事務局赤松部長)

「感染症予防計画」は、新型コロナを見据えた計画になっておりまして、県では新型コロナ対策の振り返りをしながら検討を進めているような状況です。病床などの目標値や自宅療養をどうするのかといった点など、県下全域で決めないと難しいものがありますので、こまめに調整しているという状況でございます。

(赤羽委員)

確かに新型コロナのときの「神奈川県モデル」では、県全体の流れと市内の医療資源も異なり、背景も違っていたため、こうした点も一つの参考になりますね。ありがとうございます。

続いて、41ページ、医療的ケア児・者のところです。「現状と課題」の一番下にある「医療的ケア児・者及び障害児・者に適切な医療を提供できるよう、福祉・保健・医療・教育等の連携を更に強化し～」とあるのですが、「保育」が抜けているように思います。「教育等」の「等」の中に「保育」が入っているということでしょうか。保育は、重要なキーワードかと思っておりますので、できれば明記して入れていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局鎌田課長)

地域医療課の鎌田です。ご質問ありがとうございます。

保育につきましては、区分上では「福祉」の中に入ります。幼稚園が「教育」に含まれるというように、行政上の区分としてはそのようになっていますが、市民の方に分かりやすい計画にしなければいけないということもございますので、ご意見

を踏まえて検討させていただきます。

(赤羽委員)

ありがとうございます。保育だけでなく、幼稚園の問題もぱっと見て分かるように言葉を入れていただくとよいのではないかと思います。保育や幼稚園の問題で困っている市民の方もたくさんいるので、よろしくをお願いします。

(事務局鎌田課長)

ありがとうございます。

(伏見部会長)

牛丸委員、お願いします。

(牛丸委員)

日本看護協会が行っている災害支援ナースが行政主導で災害だけでなく感染症も含めた派遣体制に変わっていくことになっているのですが、横浜はYナースといって災害支援の看護師の派遣も構築されており、すみ分け、あるいは連携等について、整理したほうがよいのかなと感じています。

(事務局笹尾課長)

救急・災害医療課長の笹尾と申します。ご意見ありがとうございます。横浜市で進めている災害支援ナースの制度につきましては、市内で大規模な災害が発生したときに、医療救護隊の一員として地域の中で活動していただける看護師の方を事前に登録するという制度で進めております。一方で、神奈川県内の災害支援ナースの制度は、横浜市外、神奈川県内で起きた災害に対して支援を行うための登録制度ということになっています。ご指摘のとおり、名前は似ていますが、役割が異なります。Yナースの登録制度につきましては、毎年研修を行っており、登録に向けた広報も行っていますので、より分かりやすく制度が説明できるように、今後も広報や研修の在り方を検討していきたいと思っております。

(牛丸委員)

ありがとうございます。行政主導で変わっていくということですので、ぜひ検討を進めていただければと思います。よろしくをお願いします。

(伏見部会長)

どうもありがとうございました。ほかにご意見等ありますでしょうか。

(吉村委員)

市民病院の吉村と申します。当方は感染症内科ですので、感染症についてお話しします。次期プランでは「感染症予防計画」が加わるということで、V章に「感染症医療」が、VI章「感染症対策」が入っていて、内容的にも重複してしまうところもありそうです。V章には新興感染症、VI章には特定の感染症対策として新型インフルエンザ対策等が載っていて、両方とも必要な章だと思いますが、この2つの章はどう書き分けていくのでしょうか。

(事務局赤松部長)

ご意見ありがとうございます。健康危機管理担当部長の赤松でございます。先生がおっしゃるように、V章には主に新興感染症の医療に関するところ、医療計画に基づく部分を記載します。VI章には、感染症予防計画に関する部分、もともと保健所がやっている感染症健康危機管理関連の項目が入ります。続いて、VI章の特定の感染症対策には、先ほどロジックモデルをお示ししましたが、例えば予防接種であれば接種率の目標値など、具体的にやるべきことや課題、目標、実際の数値目標などを落とし込むという形になります。章立てとしては、いわゆる保健所の機能に関するところがVI章に入り、医療に関するところはV章に入るというイメージで考えております。

(吉村委員)

では、保健医療プラン自体をコンパクトにする中で、冗長にならないように注意してつくられるということですね。どうもありがとうございます。

(伏見部会長)

1点確認ですが、34ページのV-4のタイトルは「新興感染症医療」になっているのですが、12ページの目次のほうは「感染症医療」になっています。どちらかそろえたほうがいいのではないかと思います。

(事務局山木係長)

大変失礼いたしました。整えます。

(伏見部会長)

ほかにはご意見・ご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の議論はこれで終了としたいと思います。活発なご議論ありがとうございました。皆様からのご意見等を踏まえて、引き続き検討を進めていただきたいと思います。

#### 4 その他

(1) 今後のスケジュールについて

(伏見部会長)

その他について事務局からお願いいたします。

(事務局丸山課長)

<スケジュールについて説明>

#### 5 閉会

(伏見部会長)

それでは、本日の部会はこれもちまして終了させていただきます。長時間にわたりどうもありがとうございました。



資 料 ・ 特記事項	資料 1 「よこはま保健医療プラン2018振り返り」について 資料 2 「よこはま保健医療プラン2024」について 資料 3 今後のスケジュールについて 参考資料 1 よこはま保健医療プラン策定検討部会設置要綱 参考資料 2 委員名簿 参考資料 3 よこはま保健医療プラン2018振り返り評価シート